

【東日本大震災一復興支援】

食糧支援から復興支援へ 16日朝から石巻入り

震災から1ヶ月。いよいよ具体的な「復興」に向けた支援体制を組みます。人海作戦での津波の泥砂撤去作業と同時に、生協業者会の協力でコンボ・ダンプを運び込み、瓦礫撤去・工場設備の実務的な復旧支援を開始します。

4/16(土)まず職員チーム10名と、専門業者のダンプ2台、12トンコンボを高橋徳治商店さんの工場(宮城県石巻市)へ。引き続き、岩手コタニさんの工場(岩手県三陸町綾里)へ移動する予定です。

津波被災地では瓦礫撤去のための重機が不足
津波被災地の瓦礫撤去にダンプやコンボを送り込もう！
産地災害復興支援基金 追加募集！ (1口 500円)
注文用紙で申し込めます **No. 467**
○注文用紙のこの番号に「1」と記入すると500円、「2」記入で1,000円となります。
○商品代金と同じ請求にて自動引き落としをさせていただきます。二次募集で6月4週まで続きます。

この商品案内・注文書は5月2回です。
ゴールデン・ウィーク明けのお届けです。
5月1回と2回を
事前同時回収といたします。
ご協力をよろしく申し上げます。

【被災地避難者応援布団づくり 綿くりのお手伝い募集】 ● 綿よ綿よ お布団になあれ 一緒に 綿繰り機 くるくるしゃるしゃる回して あったか〜を届けよう

この度の未曾有の激震と津波という自然の猛威に何もかもを失い、大きな悲嘆にくれる皆様方に、せめてもの私のできることは何かと考えました。

季節折々、これまた自然がなしてくれた贈り物を途絶えさせてはならないと、ひたすらに、来る年も来る年もずっと種を蒔き続け収穫し続けてきた和綿栽培。その綿がありました。そうでした。やればできる？できそうかな！何よりもまずは、心と体をほんわりと包んでくれて休みどころとなってくれる、あったか〜な「和綿のお布団」を贈りたいと思い立ちました。(幸いにも布団手作りの技能士さんとの出会いもありました。また、寒さに弱い綿は茨城県が北限であり東北の地では育たないのです。)

ですが、布団ができる程の大量の綿を紡ぎ出すには、大変な作業が必要です。綿実には綿毛の中に納豆の粒ほどの種が沢山入っているのです。その種と綿を繰り分けてから製綿をして布団作りが可能になります。

昔の人は普通の生活の中でそれらを順繰りにしてきたのですが、今、短期間でそうしたことをやり切るには少々無理があります。が、被災地の方々には、それが今必要と思うのです。

春は来れどまだまだ寒さもあります。気持ち急ぎます。一緒にくるくる綿繰り機を手回していただければ幸いです。優しく力強い気持ちが綿繰り機からしゅるしゅると綿になって出てくれます。

「あったか〜布団づくり」応援の綿繰り機回しをして欲しいと願います。

常総生協の特技、手のぬくもりと気持ちが一緒になった、世界にたった一つの手作りのお布団を、被災の地で待っていて下さる皆さんに届けたい。

どうか、皆さんの力をお借りしたいとお願いを申し上げます。
村井和美

被災地へ布団提供 つば市の綿花栽培 グループ「おらこっ ン」(村井和美代表) が、自家栽培した綿花 から子ども布団を作 って東日本大震災の被災 者に贈る計画を進め ている。まず、精綿済 みの80%を2日、常総 市の布団製造会社川 亀製綿に運び、製造を 頼んだ。綿花は綿と種 をより分ける綿繰りに

つば市の綿花栽培グループ「おらこっン」(村井和美代表)が、自家栽培した綿花から子ども布団を作って東日本大震災の被災者に贈る計画を進めている。まず、精綿済みの80%を2日、常総市の布団製造会社川亀製綿に運び、製造を頼んだ。綿花は綿と種をより分ける綿繰りに



活動拠点の工場にて、綿の感触を確かめる村井さん(左)とつば市自由が丘2丁目、安味伸一(撮影)

現在、つば市自由が丘で、収穫した綿についた小さなゴミを除き、実を取り除く「綿くり」作業をしています。生協本部の1階でみんなで集まって綿くり企画も計画しています。
お手伝い可能な方は生協村井までご連絡下さい。

綿に弾力が出る。要望に合わせて協力した。と話を。支援の布団は、被災者が仮設住宅や自宅に戻るときを見計らって今秋ごろ、村井さん

【安味伸一】

【4/13石巻復興支援のための事前調査】 再興に向けて、立ち上げれ石巻！

瓦礫の撤去・工場内の泥かき支援のために、土木・機械専門家といっしょに石巻高橋徳治商店さんの工場の事前調査に行ってきました。16日(土)より人海支援とともに、ユンボ・ダンプ・ローダーを茨城・栃木から持ち込み、復興支援の第一歩に入ります。

鈴木牧場、魚住農園、微生物農法の会をはじめ生産者のみなさんからたくさんの協力・助言・専門家紹介を頂きました。常総生協業者会でも役員会が開かれ、仲間の生産者の復興を全面的に支援することを確認頂きました。



高橋徳治商店本社工場。地盤沈下1.3mで満潮時にはすぐそばまで海水が。工場内は津波でずまじい。しかしここから再建する方針。



石巻港から300mの第二工場。一帯がすでにマイナスの海拔になってしまっているため工場はあきらめるものの、壁を壊して瓦礫を撤去、中にある貴重な機械を引き出すことに。



本社工場内部。1t~4tのすり身練り機械が散乱。第二工場内。瓦礫でぐちゃぐちゃ。高橋さん家族と復旧作業の打合せ



石巻市内の様子。左から日本製紙の惨状。道路に乗り上げている巨大な船。逆さになって家に突っ込んでいる船。石巻港では被害を受けた冷凍倉庫の魚を「海洋投棄」するための仕分けが行われていました(いちばん右)。下は海岸沿いの風景。



6月11日(土)総代会に合わせて、つくば国際会議場にて
東日本大震災・原発被害
「復興応援(チャリティー)映画会」を開催します。

【上映映画】「ミツバチの羽音と地球の回転」、「フード・インク」

【日時】6月11日(土) 【場所】つくば国際会議場 大ホール 【入場料】復興支援カンパを含んで1500円の予定 【企画】東北・茨城の被災生産者による被災産地販売ブースも計画しています。

福島・山木屋グリーン牧場が 「計画的避難地域」に指定されてしまいました。

収束の見通しがなかなかつかない福島原発。

4月11日、福島原発から32kmの山木屋グリーン牧場(高橋牧場)が、1ヶ月以内に避難すべき「計画的避難地域」に指定されてしまいました。

4/2に生協から食糧や水などを持って励ましに行き、その日の朝に搾った原乳を頂いてつくばの研究所に検査に出した結果は、ヨウ素131が21.8ベクレル、セシウム134が47.4、セシウム137が65.1ベクレルとかなり低位になっていました。

新学期を迎え、埼玉に避難していた奥さんと子供も川俣町に戻り(牧場での自宅生活はしばらく不可能ということで高橋さんの実家川俣町の家を居に牧場に通うことに。子供さんは山木屋小学校から川俣小学校へ転入しました)いっしょの生活に戻ったばかり。

酪農は、これまでの自由な放牧はしばらく無理だとしても、北海道などから牧草を送ってこの1年を乗り切り、また牛乳・チーズづくりを再開しようと、生協で牧草の調達先をお願いしていた矢先の避難指示。

牛たちをどうするか・・・まだ確定していませんが、口蹄疫の時と同じような「殺処分」という話が出ているとのこと。

お父さんが山を切り拓いてチーズ・牛乳づくりを始めた時から25年のおつきあいの高橋牧場。再び試練の時ですが、どうか希望を捨てないで頑張ってほしいと思います。生協でもどんな応援ができるかももう一度考えます。



●山木屋牧場応援企画 第二弾 5月1回別チラシで
「山木屋バター」(大・小)企画！ よろしくお願ひします。

【母乳、放射能検査】 生協の母乳検査を元に専門家による検討会開催へ

3/30の母乳の放射能値が少し高かった千葉の組合員さんの母乳を4月4日に再度検査してもらいました結果、ヨウ素は14.8ベクレルと大きく低下しました(前回36.3ベクレル、セシウムはいずれも不検出)。

第一次の検査でつくば市の組合員さん(Aさんの状況について聞き取り間違いがありました。Aさんは飲料水は深さ80m井戸水で、むしろ「家庭菜園の畑で作った自家野菜を気にせずむしゃむしゃ食べている」とのことでした。

●専門家による検討へ

産婦人科学会でも実際のデータがないということ、今回の生協の調査結果を元に、つくば市で今

月末に小児産婦人科医、放射線学、統計学の先生方が検討会・勉強会を開催すること、生協からも参加する予定です。

●福島での呼びかけへ

他方、いまだ高濃度の放射性物質に晒されていると思われる福島県にいるお母さんや乳児がたいへん心配です。

2003年の谷和原村での遺伝子組換え大豆作付け事件で協力支援を頂いた名古屋の「食と環境の未来ネット」の皆さん、そして「チェルノブイリ救援中部の会」の河田先生などと連携して、福島での母乳調査を呼びかける予定にしています。